

こんにちは。2023 年度に大東文化大学外国語学部英語学科を卒業した川内駿斗です。在学中にはアメリカの Southeast Missouri State University (SEMO) へ交換留学をしました。現在はオーストラリアの大学院に在学しており 11 月に正式に卒業が決まりました。本稿では、英語に興味を持ったきっかけから留学、大学院進学を通じて得た学びについて紹介します。

## 1. 留学を意識するようになった背景

今まで野球中心の生活を送ってきた中で、大学生になり何か新しいことに挑戦したいと感じるようになりました。英語を話せるようになれば、これまでとは違う世界を見ることができるのではないかと考え、留学を決意した理由としてはそのように説明することが多いです。しかし、当時の自分を振り返ると、留学を決意した時点では明確な目標や深い考えがあったわけではありませんでした。

実際には、ある日偶然目にしたNetflixの海外ドラマに強く感化され、その日のうちに交換留学の申し込みを行いました。今思えば勢いで決断でしたが、その行動が結果的に自分の人生を大きく変える転機となりました。留学を通じて英語力だけでなく、自分の価値観や将来の選択肢が大きく広がり、あの時一步踏み出したことは間違いではなかったと感じています。

## 2. SEMO での交換留学経験

交換留学は約 9 か月間にわたるものでしたが、出発前に十分な準備をしてこなかったこともあり、留学当初は英語がほとんど理解できない状態でした。日常生活の中でも苦労は多く、ファストフード店でマクドナルドのハンバーガーセットを注文することすらできず、自分の英語力の不足を痛感しました。また、友人との会話でも聞き取れないことが多く、周囲の会話についていけない場面が続きました。

そのような状況の中でも、「英語環境に身を置くことから逃げない」ことを意識し、日常生活の中でできる限り英語を使うよう心がけました。友達と遊ぶことも勉強と思い、授業内外を問わず、積極的に人と関わるようにしたことで、留学開始から 3 か月を過ぎた頃には、英語での会話や授業内容の理解に大きな成長を感じられるようになりました。留学中は寮で生活し、平日や週末には授業の予習・復習や課題に追われる日々を過ごしていました。その一方で、寮に住んでいない友人たちとハウスパーティーを開くなど、適度に息抜きをしながらメリハリのある生活を送っていました。アメリカの学生は想像以上に日頃から勉強に取り組みつつ、私生活も大切にしており、その姿

勢から多くの刺激を受けました。

また、運よく良い友人に恵まれたことも、留学生活を乗り越えるための大きな支えとなりました。英語がうまく話せない時期でも根気強く付き合ってくれた友人たちの存在があったからこそ、失敗を恐れずに挑戦し続けることができたと感じています。



### 3. 大学院進学を考え始めた理由

SEMO での交換留学を通じて、英語力そのものは確かに向上したと感じました。しかし同時に、これまで野球中心の生活を送り、学業から逃げてきた自分自身の知識不足や理解力の浅さを強く実感するようになりました。単に英語を話せるだけでなく、英語を使って高度な内容を理解し、議論できる人材になりたいと考えるようになったことが、大学院進学を意識する大きなきっかけです。

また、SEMO 在学中に友人たちと将来の進路について話す機会が多くありましたが、日本とは異なり、多くの学生が大学院進学を目指していることに驚きました。大学卒業後は必ず就職するものだと思っていた自分にとって、進学という選択肢が当たり前存在することを知り、学びを続ける道も一つのキャリアであると考えようになりました。

### 4. 大学院在学中の学び

大学院では授業がディスカッション中心となり、決まったトピックについて自分の意見を的確に求められる場面が多く、当初は戸惑うことが多くありました。前提知識が十分でない中で取り組むケーススタディや、大量の文献の読み書きにも苦勞し、内容を理解するスピードについていくことが大きな課題でした。しかし、SEMO での交換留学を通じて英語環境に慣れていたことが、こうした困難を乗り越える支えとなりました。

また、オーストラリアの大学院では生活費を補うために学外でアルバイトをすることができ、勉学と生活を両立する必要がありました。さらに、就職活動も新たな土地で同時に進めることは決して簡単ではありませんでしたが、限られた時間の中で優先順位を考えながら行動する力が身についたと感じています。これらの経験を通じて、論理的に考え自分の意見を持つ姿勢が定着し、多国籍のメンバーとも円滑に協働できるようになりました。



## 5. 留学・大学院経験が就職活動に与えた影響

留学および大学院での経験を通じて、初対面の相手とも臆せずに話せる姿勢が身についたと感じています。就職活動では、英語力そのものよりも、新しい環境に適応し主体的に行動してきた点に注目されることが多くありました。また、英語のスコアを取得しておくことで留学の成果を客観的に示すことができ、評価につながったと感じています。海外での学びや生活、アルバイトなどの経験は具体的なエピソードとして深掘りすることができ、就職活動に限らず進路選択の幅そのものが広がりました。

一方で、留学期間と就職活動が重なることで、時差の影響や情報収集の難しさを感じる場面もありました。実際に、深夜に面接や企業説明会を受けている友人もあり、留學生活との両立は決して簡単ではありませんでした。しかし、そのような状況だからこそ、自分で情報を取りに行き、限られた時間を有効に使う力が身についたと感じています。

## 6. 課外活動：ゴールボール日本代表チームでの通訳経験

留学および大学院で英語を実践的に使う経験を積んだことで、自身の進路の選択肢が大きく広がったと感じています。その一つが、ゴールボール日本代表チームの専属通訳として活動する機会を得たことでした。英語が使えるようになったからこそ挑戦できた経験であり、留学の成果を強く実感する場面でもありました。実際にパリ・パラリンピックをはじめ、世界大会など複数の国際大会に帯同し、現地でチームの一員として活動しました。その中で、国際大会において金メダル獲得という非常に貴重な経験をすることができました。競技の現場では、単に言葉を訳すだけでなく、選手やスタッフの意図や状況を正確に伝えることが求められ、高い責任感と判断力が必要でした。これらの経験は、英語を身につけたことで初めて得ることができたものであり、自身の大きな自信と成長につながりました。また、就職活動においても、異文化環境で主体的に行動した具体的なエピソードとして深く話すことができ、強い印象を残す経験となりました。

## 7. 振り返り・後輩へのメッセージ

振り返ると、留学や大学院進学、課外活動への挑戦を通じて、自分の人生の選択肢は大きく広がったと感じています。英語を学び、実際に使えるようになったことで、想像もしなかった経験に挑戦することができました。学校で受けた初めてのTOEICは360点でしたが留学のおかげで人生が変わり、日本代表に帯同した経験、海外大学院卒業、そして就活も希望通りの会社に内定を頂くことが出来ました。

これはあくまで個人の意見ですが、留学に少しでも迷っているのであれば、挑戦したほうが良いと強く感じています。実際に留学はキラキラしているだけではないと思いますがその経験が将来大きく役に立つと信じています。25歳になった今、周囲では「留学に行っておけばよかった」「ワーキングホリデーに行こうと思っている」と話す人も多く見られます。その一方で、学生のうちに留学できる環境は決して当たり前ではありません。

大東文化大学には、交換留学や奨学金制度をはじめとした多くの支援制度が整っており、卒業後にすべてを自力で準備して海外に行く場合と比べると、費用面・サポート面の両方で非常に恵まれていると感じています。これらの制度を活用しないのは、正直なところ非常にもったいない選択だと思います。私自身も、奨学金を含めた大学からの多くの支援があったからこそ留学に踏み出すことができ、今の自分があると感じています。迷っているのであれば、ぜひ一歩踏み出してみたいです。